

世界に向けて、ユニット内治療水の汚染問題解決を発信！

安心・安全な「医療」への取り組みが評価され、より一層の「きれいな歯科治療水」普及へ・・・。

2019年7月15日、POIC®研究会 矢島理事長・米山会長の研究論文が

日本歯科医療管理学会にて 最優秀論文賞を受賞しました

「歯科ユニット給水系の細菌汚染の実態及びその対策の有効性
さらに経年的経過に関する研究」

ト
レ
ック
ス

POIC®研究会の安心・安全な歯科治療水への取り組み、POIC®研究会が推奨する「安心・安全な治療水」生成システムが、大きな評価を獲得しました。

本研究では、歯科用ユニット給水系の細菌汚染問題の実態を解明するとともに、有効な対策を探ることを目的とした。2009年から2015年まで79歯科施設、173台の歯科用ユニットによる歯科治療水の細菌数調査。さらに汚染対策として有効残留塩素補正消毒システム：エコシステム（エビオス社製）を設置した後の治療水の細菌数を調査し、本システムがDUWL（歯科用ユニット給水系）の細菌汚染対策に極めて効果的であることを実証した。



受
賞
の
言
葉



「受賞にあたって」

POIC研究会
矢島 孝浩 理事長

今回日本歯科医療管理学会最優秀論文賞という大変名誉ある賞をいただくことが出来ました。これもひとえに会員の皆様始めくださる全ての皆様のおかげであります。本当にありがとうございます。

POIC研究会設立当初より、日本の歯科治療水の現状に危機感を抱き、歯科においてはこの解決無くして患者さんに安心安全な「医療」を提供できないと考え、そのためには有効残留塩素濃度補正消毒システム；エコシステムが必要不可欠であるとの思いから、その普及に努めて参りました。しかし残念なことにエコシステムの有効性はわかりながら、様々な理由で設置には至らず、さらに歯科治療水の現状を知りつつあえて蓋をするような医院もあるのです。

今回エコシステムによって経年的に殺菌力がある歯科治療水が診療室に供給でき、その有効性が論文として高評価をされたことは日本の歯科医療が真の医療になり、一般医科と対峙する大きな一歩となると思います。これからもご協力をお願いいたします。



「一番の喜び」

POIC研究会
米山 武義 会長



POIC研究会の皆様、プラズマレーザー研究会の皆様、暑い夏をいかがお過ごしでしょうか。

去る7月15日に御茶ノ水の日本大学歯学部で開かれました第60回日本歯科医療管理学会 総会 学術大会で最優秀論文賞にPOIC研究会理事長 矢島孝浩先生の論文がその栄誉にあずかりました。皆様ご存知のように、日本歯科医療管理学会は日本歯科医学会の傘下にある専門分科会の一つとして60有余年の歴史を持つ大変格式ある学会です。また厚生労働省とも深い関係があり、今回の受賞は我々にとって大変意義のある受賞であることを皆様にお伝え致します。

当日、矢島理事長が出張で不在であったため私、米山が授賞式に参列いたしましたが、式の後、理事を務められているある医学部教授より「本学会より世界に向けて、ユニット内治療水の汚染問題を解決した情報を発信できて光栄です」と言っていただきました。

POIC研究会の発足当時の2012年から訴え続けてきた「歯科治療に使う水を無菌的にする」という悲願が科学的な論文として世に出せたことの意義はひじょうに大きいです。この慶事はあくまで我々が目指す未来の専門的口腔感染症予防の一里塚であると思います。文化として定着するまで自信を持って、しかし誠実に地道に我々の理念と実際を啓発していきましょう。近い将来、さらに長期のしかも対象診療所とユニット数を増やした論文を出したいと思います。